

「Corridart」(コリダール)とは、corridor(回廊)とart(美術)の二つのフランス語を合わせた造語です。横須賀美術館地階の回廊型のギャラリーにちなんで名づけられました。

[特集]

いつでも だれでも 訪れたい美術館

[展覧会情報]

縮小／拡大する美術 SENSE of SCALE センス・オブ・スケール展

「ねないこだれだ」誕生50周年記念 せなけいこ展

[この1点]

島田章三 《怪獣やロボットもいるフリーマーケット》

[レポート]

視覚障害者のための出張鑑賞会 in横須賀市点字図書館

編集：横須賀美術館／平成31年3月発行
デザイン：tegusu Inc.
印刷：株式会社ライブアートブックス
*このニュースは10,000枚作成し、1枚あたりの印刷費は約36.1円です

横須賀美術館の情報は
公式TwitterやFacebookでも
ご覧いただけます。



レポート

視覚障害者のための出張鑑賞会

in横須賀市点字図書館 実施日：2018年10月26日(金)、10月27日(土)

昨年秋に、横須賀市点字図書館と共催し、谷内六郎作品の複製画・音声ガイド・触図を用いた出張鑑賞会を行いました。視覚障害者の方々が通い入れた点字図書館で開催し、付き添いの方も含め41名が参加されました。視覚障害者の方に美術鑑賞の機会を提供し、美術館や美術作品への興味を持ってもらうことを期待したところ、さまざまな意見や感想を聞くことができたと同時に、よりよい触図のつくり方や、音声ガイドの改善点など、今後に向けたたくさんヒントが得られました。

1 10:30～16:00 谷内六郎作品鑑賞会

イーゼルに複製画をのせ、手前の長机に音声ガイドの読み上げ機(プレクストーク)、ヘッドフォン、触図を用意しました。机の右端には点字入りのキャプションも貼付しました。



2 14:00～15:00 みんなでお茶会

お茶会の様子。お菓子は谷内六郎にちなんで、なつかしい駄菓子としました。最近はまだまっていることや外出先を選ぶポイント、美術館のイメージなどが話題になりました。



3 参加者からの感想

視覚に障害がある方より

また開催で欲しい! 楽しかった!!

六郎のことが以前から好きだった。今日は作品を楽しむことができて嬉しい!(蔵書の画集を持参)。

見えなくなる前は、美術館によく行っていた。見えなくなってきたからは諦めていたが、また作品鑑賞をすることができて嬉しい。

目撃者(点字図書館ボランティアなど)

障害の有無と関係なく、このガイドの中身だったら暗眼者にとっても作品をよく見る機会になる。どちらにも使えると思う。

点字図書館職員

みなさんとも良い反応だった。例えば点字図書館フェスティバルで展示するなどして、今回参加しなかったユーザーの方にも楽しんでほしい。

この1点

島田章三

《怪獣やロボットもいるフリーマーケット》

2015年 油彩・画布 130.3×162.1cm 当館蔵



通り的一角に品物を並べてフリーマーケットが開かれています。陶器を手にして座っている女性は出店者で、コーヒーマルを指差しているもう一人の女性はお客でしょうか。

並んでいるのは、ガラスの香水瓶や磁器、地球儀、エッフェル塔や鳥の置物、めがねの他にも子ども向けの玩具と思われる怪獣、ロボット、車や汽船です。これらの品々は一見脈絡がないように見えますが、客船の船内デザイナーだった父を想起させる汽船、コレクションして

いたガラス器、絵付けを中心に手がけた陶器、留学中に目にしたエッフェル塔、キュビズムの画家ジョルジュ・ブラックへのオマージュとして作品に描いた鳥、日常的に使用しためがねや車など島田章三にゆかりあるものです。

では、タイトルにある怪獣とロボットは何に由来するのでしょうか。この二つは以前の作品には登場しておらず、館長をつとめた横須賀美術館近くの観音崎のたたら浜に怪獣の形をした滑り台があったことを除けば、ゆかりを見出だせません。

ところで本作を発表した2015年は所属する美術団体、国画会の90回記念を翌年に控え、新作を中心とした個展と50年にわたる画業をまとめた画集「国展とシマダイズム」の出版が相次いだ重要な年でした。後進を指導する立場になっても制作に対する意欲は衰えず、これまでの作品にはない新たなモチーフを求めて怪獣とロボットを描いたのではないかと推察します。

横須賀に生まれた島田章三(1933～2016)は、大学在学中の1957年に国画会に初出品した《ノイローゼ》で国画賞を、1967年に《母と子のスペース》で新人画家の登竜門とされる安井賞を受賞しました。翌年ヨーロッパに留学し、キュビズムの作品に接したことで「キュビズムを日本人の言葉(造形)に翻訳する」ことを自らの課題として見出しました。そして自身が「かたちごと」と呼ぶ、幾何学的に構成された空間の中に日常的な情景を組み込んだ独自の人物表現によって、具象絵画の新たな可能性を探求し続けました。(HK)

※横須賀美術館は島田章三の油彩、版画、素描100点以上を所蔵しており、所蔵品展で公開しています。

横須賀美術館の所蔵作品の中から、毎回1点を選んで学生職員がわりわりと紹介するコーナーです。

親子向けギャラリーツアー

4、5歳から小学校4年生くらいまでの子どもと、その保護者(5組)を対象とした親子向けのギャラリーツアーです。「子ども向けのやさしい解説」ではなく、家族の会話のきっかけを作ったり、作品への興味を引き出せるようなツアーを心がけています。クイズを解いたり、探し物を見つけたり、1時間弱で楽しめる内容となっています。



シルエットクイズで作品に興味を持ってもらっているところ

保育園鑑賞会

全部で10ある横須賀市立保育園と連携し、保育士さんからのアドバイスも受けながら、子ども達が美術館を楽しむためのプログラムを行っています。はじめに学芸員が保育園に出かけてゆき、作品をもとに一緒にゲームをし、次に保育園の子ども達が来館し、ゲームで親しんだ作品が展示されている姿を改めて鑑賞します。



学芸員の手づくりパネル



本物だ!



今日見た作品をヒントにしたアクティビティ

子どもワークショップ

展示会の内容に合わせて、子ども向け(もしくは親子向け)のワークショップを行っています。基本的に講師はアーティストが務めるので、ご家庭ではなかなかできない創作体験ができる、人気の事業となっています(各回定員20~40人程度)。

未就学児ワークショップ

小学校に就学前の幼児を対象に、年1回(同内容で2日、各回定員18人)開催しています。



「版画でカバン」(2016年3月5-6日)では、紙版画の技法を活かして、布バックに版画を刷りました

みんなのアトリエ

開館以来開催している20歳以下の障害者を対象とした創作活動です(毎月第3土曜日、定員10人)。絵具や粘土、新聞紙とガムテープなど身近な材料を使って、絵具が混ざる瞬間や紙を丸めたときの触りを楽しみます。活動の最後には全員で大きな作品づくりに挑戦します。



できることから少しずつ取り組みます

託児サービス

小さなお子様のいる方にも美術館をゆっくり楽しんでいただけるよう託児サービスを行っています。講演会やワークショップに合わせて行う場合もありますので、どうぞご利用ください。



美術館コンサート

エントランスホールを利用して、年に数回、コンサートを行っています。弦楽四重奏やサクソ四重奏、クラシックの名曲などの演奏を毎回100人以上のお客さまにお楽しみいただいています。



冬のシネマパーティー

閉館後、エントランスホールを利用して、シネマ上映会を2日間開催しています。(各回定員30人)開催中の企画展に合わせた映画をはじめ、大人向けの落ち着いた映画を、閉館後の静かな空間で上映しています。この日だけの特別なフード(ケータリング)と合わせて、いつもとは少し違った美術館の楽しみ方です。

福祉講演会・福祉ワークショップ

号の「レポート」でもご紹介しているように、横須賀美術館では、開館以来、視覚障害者の美術鑑賞について考えを深める事業を開催してきました。海外の先進的な事例を紹介する講演会(定員50人程度)や、さまざまな感覚を用いたワークショップ(定員20人程度)を通して、他者とのコミュニケーションのあり方や、障害とはなにか、といった根源的な問いを改めて考える時間を提供しています。

野外イベント 野外コンサート



目の前に東京湾が広がる海の広場にて、企画展に関連した音楽コンサートやライブを行っています。



「ぼくとわたしとみんなの tupera tupera 絵本の世界展」関連企画の絵本ライブの様子(2017年)

野外イベント 夏の野外シネマパーティー

毎年8月に、海の広場に大きなスクリーンを仕立てて、野外シネマパーティーを開催しています。子どもから大人まで、2日間で約500人の方が楽しんでます。



企画展「日本の海展」に合わせて「フリーウィー」(日本語吹替版)を上映(2017年)

野外イベント ボランティア企画イベント

海の広場を活用しただけでも参加できるイベントを、プロジェクトボランティア(すかひ隊)が企画・準備・運営まで担っています。基本的には、ゴールデンウィーク、夏休み、クリスマスの時期に海の広場とワークショップ室を使ってお絵かきや工作などのイベントを開催し、毎回200名以上が参加しています。



いつでも だれでも 訪れたくなる美術館

横須賀美術館では、子どもから大人まで、障害の有無に関わらず、さまざまな方を対象とした活動を行っています。今回の特集「いつでもだれでも訪れたくなる美術館」では、一般に広く参加できるイベントから大人向け・子ども向け事業、ボランティア活動、学校と連携して実施している事業など、横須賀美術館の展示会以外の活動をご紹介します。

※ご参加いただける対象年齢や申し込み方法については、美術館ホームページでご確認ください。

教員のためのプログラム

学校・教員と美術館との連携を促進するため、美術館を利用した鑑賞授業を実践している先生によるレクチャーを開催したり、子どもたちの鑑賞を深めるための声掛けや、ワークシートを作るうえで工夫していることなど、学芸員が試みていることを先生と共有しています。

中学生のための美術館鑑賞教室

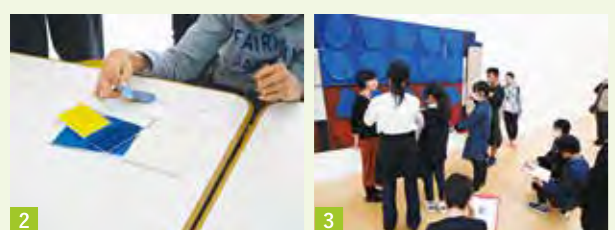
夏休みに来館する中学生向けに、受付でセルフの鑑賞ガイドを配布し、美術の宿題に役立ててもらったり、鑑賞活動を支援しています。また、鑑賞教室では、学芸員が鑑賞ガイドやパネルを使用して美術館の説明を行っています。10日間で100人以上の中学生が参加しています。



1. パネルを使ったりしながら、あまり知られていない美術館の機能についてもお話ししています 2. 「美術館レポート」や「展示会レポート」などの宿題の助けになるオリジナル鑑賞ガイド

養護学校の来館

近隣の養護学校に在学する小学生から高校生が、学校単位やクラス単位で来館しています。館内では、自由に作品を鑑賞しますが、希望があれば、事前に学芸員が養護学校を訪問して出前授業を行います。出前授業では、美術館がどんなところかをスライドで解説したり、作品を使ったゲームをして、当日に向けて気持ちを整えます。

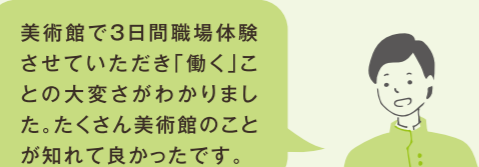


1,2. 鑑賞とつながる表現活動を行うこともあります 3. 学芸員とともに作品を鑑賞

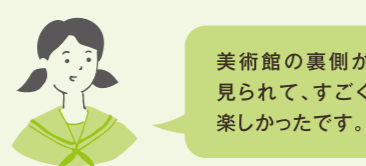


中学生 職場体験

横須賀市立中学校の2年生が行う職場体験を、横須賀美術館でも受け入れています。例年、約15校の生徒が2、3人ずつ、2、3日間にわたって美術館の仕事を経験していきます。ほとんどの中学生が、学芸員の仕事の具体的なイメージを持たずに、緊張した面持ちでやってきますが、最終日は堂々としたギャラリートークを披露してくれます。



美術館で3日間職場体験させていただき「働く」ことの大変さがわかりました。たくさん美術館のことが知れて良かったです。



美術館の裏側が見られて、すごく楽しかったです。

小学生美術鑑賞会

横須賀市立小学校(全46校)に通う約3300人の小学6年生が、学校ごとに来館します。はじめに学芸員から美術館の役割や、美術館でのルール(触らない・走らない・騒がない)の話をし、展示室では美術館のワークシートや、学校ごとの課題を手に、一生懸命作品を見て回ります。気心の知れた仲間達と一緒に来館することで、自分なりの鑑賞の楽しみ方をごく自然に実践しています。



作品を介して会話が弾むことも

博物館実習

学芸員の資格取得をめざす大学生・大学院生のために実習の受け入れを行っています。3~5月に募集し、書類審査で7、8人を受け入れています。夏休みの6日間、実習生としてリアルな「学芸員体験」してもらいます。作品の保存や管理について学んだり、教育普及事業をサポートしたり、ギャラリートークのトークプランを組み立てて、展示室で披露してもらったりなど、盛りだくさんの内容となっています。



ボランティア活動

横須賀美術館には、以下の4つのボランティア活動があります。これまでの人生で得た経験や知識に加えて、美術館で自ら学んだこともその活動に活かしています。

ギャラリートークボランティア

一定の研修を受けた後、来館者向けに所蔵品展のギャラリートークを行っています。

小学生美術鑑賞会ボランティア

小学生美術鑑賞会で来館する小学6年生の受け入れと、鑑賞支援を行っています。

みんなのアトリエボランティア

障害者向けワークショップ「みんなのアトリエ」の補助を行っています。

プロジェクトボランティア

海の広場やワークショップ室を使ったイベントを企画から準備、実施まで担っています。

SENSE of SCALE

センス・オブ・スケール展



岩崎貴宏《Reflection Model (Rashomon effect)》2015年 ジット株式会社蔵

縮小 拡大
する 美術

2019年4月13日(土)より、現代美術を中心に、精密な縮小模型や、広範囲の世界をとらえた写真や絵画、異なる縮尺が存在するインスタレーションなどを取り上げ、11組の作家や科学者による「縮小/拡大する美術 センス・オブ・スケール展」を開催します。

参加作家
いわざき たかひろ くにも いっかんせい すずき やすひろ たかだ あきこ まさこ たかはし かづみ
岩崎 貴宏 | 国友 一貫斎 | 鈴木 康広 | 高田 安規子・政子 | 高橋 勝美
たなか たつや なかや うきちろう のむら ひとし ひらぎら いさお ロバート・フック まつえ たいじ
田中 達也 | 中谷 宇吉郎 | 野村 仁 | 平町 公 | Robert Hooke | 松江 泰治

美術館で体験 スケールの旅

私たちは科学の進化とメディアの発達によって、目に見えない最小の物質から遠く離れた宇宙の果てまで、あらゆるスケールの事象について情報を得られるようになりました。その一方で、実際の大きさを体感することはとても難しいことです。アーティストにとってもスケールは、作品のコンセプトや展示空間に影響する現代的なテーマの一つです。本展では、現代美術を中心に、精密な縮小模型や、視点を対象から離すことで広範囲の世界をとらえた写真や絵画、異なる縮尺が存在するインスタレーションなどを取り上げます。スケールが変われば、なじみの風景や事物も、大きく印象を変えるでしょう。美術館で体験する「スケール」の旅をお楽しみください。



鈴木康広《日本列島のベンチ》2014年 作家蔵

みどころ1

ある土地を巨大なパノラマで想像力豊かに描き出す平町公、国内外で活躍する高田安規子・政子、岩崎貴宏による横須賀美術館にあわせた新作を発表します。



平町公《京浜工業地帯の控 3部作》より 2004-06年 作家蔵



高田安規子・政子《巨本の山》2013年 作家蔵、撮影：長塚秀人

みどころ2

ミニチュア写真家・田中達也や、横須賀出身の和風ドールハウス作家・高橋勝美によるミニチュアなど多数ご紹介いたします。斬新な見立てや、手業にご注目ください。



田中達也《しばらくここで待ってクリップ》2018年 作家蔵



高橋勝美《和風ドールハウス あたり湯》2002年 北原照久蔵

センス・オブ・スケール展

縮小/拡大する美術

会期 2019年4月13日(土)~6月23日(日)
10:00~18:00

休館日 5月13日(月)、6月3日(月)

観覧料 一般900(720)円、高大・65歳以上700(560)円、中学生以下無料
※()内は20名以上の団体料金 高校生(市内在住・または在学に限る)は無料 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付添1名様は無料

主催 横須賀美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網

関連事業

おはなし会 「物語の中には、ビックリするような“大きさ”がたくさん!」

小人や巨人など、ふつとは違う大きさの人やものが登場するおはなしを選んだプログラムです(絵本、紙芝居、すばなし、ミニブックトークなど)。

日時 5月26日(日) ①11:00~12:00 ②14:00~15:00

対象 3歳以上(低学年までは保護者同伴)

話し手 こけもの会 **定員** 30名

参加費 中学生以下無料(ただし、保護者の方は企画展観覧券が必要です)

協力 よこすか佐藤さとるロボックル展実行委員会

参加方法 当日、直接会場(ワークショップ室)にお越しください

親子向けギャラリートーク

日時 6月1日(土) 11:00~

対象 5歳から小学4年生の子どものもととその保護者5組(保護者は企画展観覧券が必要です) *事前申し込み制(5月18日必着) 催事名、代表者の連絡先(郵便番号・住所・電話番号)、参加者全員の氏名・年齢を明記の上、ハガキかEメール art-event@city.yokosuka.kanagawa.jpでお申し込みください。

企画展予告



せなけいこ作『めがねうさぎ』(1975年、ポプラ社刊)原画

『ねないこだれだ』誕生50周年記念

せなけいこ展

『ねないこだれだ』や『いやだいやだ』の作者として知られるせなけいこ(1932-)は、独学で絵を学んだ後、童画家の武井武雄の10人目の弟子として指導を受け、1969年に絵本作家としてデビューしました。以来、貼り絵の手法を用いたシンプルながらも独創的な絵本は、世代を越え、多くの親子に読み継がれるロングセラーとなっています。結婚し、子育てに奔走する最中にデビューしたせなは、我が子の興味や関心、喜怒哀楽に寄り添いながら絵本を制作しました。せなの作る絵本には、思い通りにはいかない、子どもたちの現実的な世界が広がっていますが、それはせなの母親としての視点と、自身の子どもの頃の記憶が投影されているのかもしれない。本展では、『ねないこだれだ』誕生50周年を記念し、絵本原画を中心に、スケッチやデッサン等も併せて展示し、せなけいこの仕事を紹介します。

会期 2019年7月6日(土)~9月1日(日)
10:00~18:00

休館日 8月5日(月)

観覧料 一般1000(800)円、高校生・65歳以上800(640)円、中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金 *高校生(市内在住・または在学に限る)は無料 *身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付添1名様は無料

主催 横須賀美術館、朝日新聞社